

雑司が谷旧宣教師館だより

第29・30号
2003年12月1日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷 1-25-5 Tel/Fax (03) 3985-4081

雑司が谷の歴史的建造物

池袋駅の南に位置し、目白から護国寺の西側にいたる旧雑司が谷村には、大正時代、童話作家や文学者、画家などの文化人が数多く住み、また子どもたちの自主性や個性を大切に教育を行った私立学校(*1) (成蹊実務学校(*2) や児童の村小学校(*3) 等) や、雑誌社 (赤い鳥社(*4) や文芸春秋社(*5)) がありました。このあたりには関東大震災および空襲を免れ、八十余年の月日を経て今なお残る建物が少なくありません。

雑司が谷旧宣教師館では、東京文化財ウィーク期間中 (11月1日~9日) の8日 (土) と9日 (日)、「雑司が谷歴史的建造物めぐり」を実施し、豊島区立郷土資料館をスタートして、自由学園明日館⇒鬼子母神堂⇒ (成瀬記念講堂) ⇒ (和敬塾) ⇒ 旧宣教師館をめぐりました。

雑司が谷界隈には、他にも建築史の視点から重要と考えられる建築がたくさん残っています。桃山時代後期の客殿建築から現代の超高層ビルにいたるまで幅広い時代におよび、また学校建築や洋風住宅、寺院、教会など様式も様々です。特に、大正時代から昭和初期に建てられたいわゆる近代建築(*6) が大切に使われている例が多くみられます。それらの近代建築を含め、雑司が谷周辺の歴史的建造物を紹介します。

- | | |
|----------------------|--------------|
| 1. 護国寺本堂 | 8. 学習院大学北別館 |
| 2. 護国寺月光殿 | 9. 徳川黎明会 |
| 3. 拓殖大学国際教育会館 | 10. 自由学園明日館 |
| 4. 鳩山会館 | 11. 自由学園講堂 |
| 5. 東京カテドラル | 12. 法明寺鬼子母神堂 |
| 6. 旧細川侯爵邸
(和敬塾本部) | 13. 立教大学 |
| 7. 成瀬記念講堂 | 14. 立教大学校宅 |
| | 15. サンシャイン60 |

1. 護国寺本堂

真言宗豊山派の名刹。大和元年(1681)に徳川5代将軍綱吉の生母桂昌院の発願によって創建。雑司が谷薬園の地に堂宇を建立したのが最初。歴代将軍の崇敬を得てのち、神田橋外にあった護持院を合わせて寺領2700石を有する江戸屈指の大寺として栄えた。

高台の上にある本堂は桁行7間、梁間7間の大規模な密教堂で国の重要文化財に指定されている。建立年は元禄11年(1692)、幕府の祈願寺として最も栄えた元禄期の特徴が細部に見られる。(文京区大塚5-40)



2. 護国寺月光殿

本堂西側にある客殿で、桃山時代(16世紀末~17世紀初め)の書院建築の代表的なもの。桁行7間、梁間6間で正面の軒に唐破風をつける。もともと、滋賀県大津の園城寺日光院にあったものを明治20年頃、原六郎氏が譲り受け、昭和3年、原氏より護国寺に寄贈されたもの。本堂と同じく国の重要文化財に指定されている。(文京区大塚5-40)

3. 拓殖大学国際教育会館

(旧東方文化学院東京研究所)

日中の文化交流の施設である東方文化学院東京研究所の建築であったが、のちに外務省研修所として使われ、現在は拓殖大学

国際教育会館として留学生の講座などに使われている。

当時の建築界の重鎮、内田祥三の手による設計で昭和8年(1933)に完成した。鉄筋コンクリート造3階建ての大柄な建物であるが、外観を良くみると西洋風のビルのような外壁に日本の瓦が載せられている。戦前の一時期流行した「帝冠様式」(*7)とよばれる様式で、上野の国立博物館や九段会館にも見られる。(文京区大塚1-7-1)

4. 鳩山会館

音羽の高台に建つこの洋館は、大正・昭和の政党政治家として有名な鳩山一郎の自邸である。竣工は大正13年(1924)、鉄筋コンクリート3階建て。設計者は銀座の歌舞伎座や丸の内の明治生命館を手がけた岡田信一郎で、二人は旧制中学以来の親友であったという。外壁の隅や軒、階段室のステンドグラスやベランダの手すりなど、建物全体に住み手の名前にちなんだ『鳩』『鳥』の装飾が施されている個性的な邸宅建築である。(文京区音羽1-7-1)

5. 東京カテドラル

目白通りに面してそびえ立つローマカトリックの教会堂。わが国を代表する建築家の一人である丹下健三の設計により、昭和39年(1964)に完成。直線と曲線を巧みに組み合わせた独特な外観とステンレススチールによる外壁が現代的な聖堂を印象付けている。空から見ると十字架の形に見えるのも特徴。(文京区関口3-16-5)



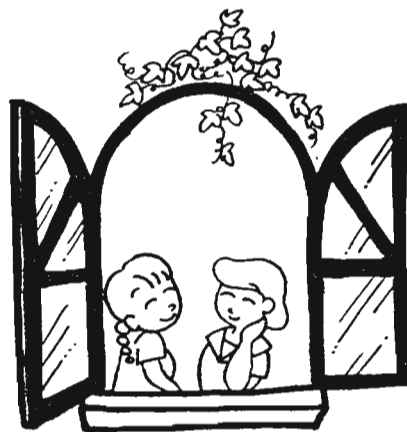
6. 旧細川侯爵邸(和敬塾本部)

もともと肥後の細川侯爵の邸宅として建てられた建築で、7000坪の広大な敷地に昭和11年(1936)竣工。鉄筋コンクリート造3階建て。外観はチューダーゴシックを基調とし、様々な様式をちりばめた折衷様式の典型である。室内においても、田舎家風の書斎や西洋中世風の洋間など和と洋の混在が見られる。(目白台1-21-2)

7. 日本女子大学成瀬記念講堂

山口県生まれの女子教育の先駆者、成瀬仁蔵がわが国最初の女子大学として明治34年(1901)に創設した日本女子大学の講堂として明治39年(1906)に竣工。現在は創立者を記念し成瀬の名を冠して保存・使用されている。

創建当初は、大きな三角形の破風を正面と妻部に載せた中世風の煉瓦壁の建築であったが、関東大震災被災後の改修により外観は板壁に変わっている。内部は創建時の部材を丁寧に保存使用し、特に木骨トラスやステンドグラスなどは創建時のままであり、ゴシック様式の教会堂風の雰囲気をよく残している。(文京区目白台2-8-1)



8. 学習院大学北別館

明治41年9月、学習院と華族女学校とが合併し、中等学科以上が目白に移転した当時の建物。木造の学校施設の多くが関東大震災と第二次大戦により失われたが、当時の図書館だったこの建物は無事残り、現在内部を改造し史料館として使われている。

竣工は明治42年(1909)、宮内省の設計による木造平屋の建物である。妻壁に表れたトラスや下見板張りの外壁等が昔の面影をよく伝えている。他にも敷地内に明治の建物が数棟残る。(豊島区目白1-5)

9. 徳川黎明会

徳川黎明会は尾張徳川家に代々伝わる書籍、古文書記録類や書画、古美術品等を保存研究するため、第19代侯爵徳川義親により設立された財団である。この建物は義親の邸宅の一角に置かれた財団本部で、文庫と徳川林政史研究会が併設されている。

木々に囲まれた建物は鉄筋コンクリート造りで、外観はスクラッチタイル仕上げ、

1階部分の大半は銀座和光、日劇等を手掛けた渡辺仁の設計により昭和7年(1932)に完成したが、現在の玄関扉や2・3階、葵紋付棚・門・石塀・煉瓦敷などの外観は、昭和46・48年に新設されたものである。

書画、古美術品などは、名古屋に徳川美術館を設けて収め公開されている。

(豊島区目白3-8-11)

※この財団本部の建物は非公開施設です。



10. 自由学園明日館

羽仁もと子、吉一夫婦による新しい教育の場である自由学園の校舎として、大正11年(1922)に建てられた。設計は旧帝国ホテルの設計者として知られるアメリカ人建築家F. L. ライトである。

木造モルタル塗りの校舎は、中央のホールと食堂を中心として南側の庭を囲むように東西の教室を伸ばし左右対称の構成をとっており、都心にありながら一種のどかな風景を作り出している。(*8)幾何学的な窓のデザインはライトならではのものである。

重要文化財(建造物)平成9年指定

11. 自由学園講堂

細い道をはさんで、明日館の向かいに自由学園の講堂が建っている。形のイメージは明日館に似ているが、こちらはライトの弟子である遠藤新の設計によるもの。師の作品を範として、昭和2年(1927)に完成している。

(豊島区西池袋2-31-3)

12. 法明寺鬼子母神堂

法明寺は弘仁2年(811)の創建と伝えられ、吾妻鏡にも記された古刹。元々真言宗の威光寺と称していたが、鎌倉時代に日蓮宗に改宗し現在にいたっている。

この堂は寺の200mほど南の境外にあり、子どもの守り神である鬼子母神を祭っている。天文6年(1537)の創立と伝えられるが、現在の建物は寛文4年(1664)に前田利常の息女日妙の寄進によるもので、本殿、拝殿からなる権現作りの建築。本殿は金箔押し、黒漆塗りで極彩色が施されている。(豊島区南池袋3-18-18)

13. 立教大学

明治7年(1874)、東京築地居留地に開校した立教学校は明治36年(1903)年に立教大学を設立、同42年に池袋に大学用地を取得し移転を決めた。キャンパス計画は、米国マーフィ・アンド・ダナ社が手掛け、アメリカ式の新しいキャンパス構成がここに実現した。

正面を入ると時計塔をもった本館、右側の礼拝堂、左側の図書館とがコの字形に庭を囲み、その後方に食堂と寄宿舍を配置する。建物はいずれも大正期の赤煉瓦造でゴシック調のデザイン。

14. 立教大学校宅

立教大学校地の西側にある、アメリカ開拓時代のいわゆるコロニアル風木造洋風住宅。震災後、築地居留地から移り住んだアメリカ聖公会宣教師のための住宅であり、また外国人教師の住宅としても使われた。

昭和2年(1927)に竣工。設計は築地の聖路加病院を手掛けたJ. V. W. バーガミニによる。現在11・12号館が立教学院本部として使用されている。

(豊島区西池袋3-31-1)

15. サンシャイン60

地上60階建て、高さ240mという当時(25年前)我が国で最も高かった超高層オフィスビル。巣鴨プリズン(東京拘置所)の跡地に計画されたサンシャインシティの中心をなす建築。この再開発計画は330×181mの街区にオフィス、ホテル、デパート、文化会館の4棟を幹に複合的な新都市施設を作るという大規模なもの。サンシャイン60は、その先駆けとして昭和53年(1978)4月竣工。

【注】

*1. 明治末期から大正にかけて、豊島区は環境

の良い文教地と見られ、宗教大学（現在の大正大学）、学習院、立教学院などの高等教育機関が移ってきた。さらに大正デモクラシーの機運の高まるなかで、定型化された明治時代の公教育批判がおき、子どもの自由・個性・自主・自治などを尊重した教育のあり方が探られはじめた。そしてその理論を實踐するための新しいタイプの学校が次々に設立された。これらを新学校（ニュースクール）と呼ぶ。

* 2. 1912年（明治45）開校。初代校長は中村春二。学習は自学自習が建前であり、授業のほかに「作業」と呼ばれる労働や清掃を設けた。教師と生徒の間の真剣な対話を大切に、人物教育に重きをおいた。校舎は現在の池袋駅西口メトロポリタンホテルあたりにあった。

* 3. 1924（大正13）、西巣鴨町大字池袋1240番地で開校。校長は日本のペスタロッチといわれた野口援太郎であり、学校名を児童の村としたのは武者小路実篤の新しい村の影響を受けたもの

と思われる。

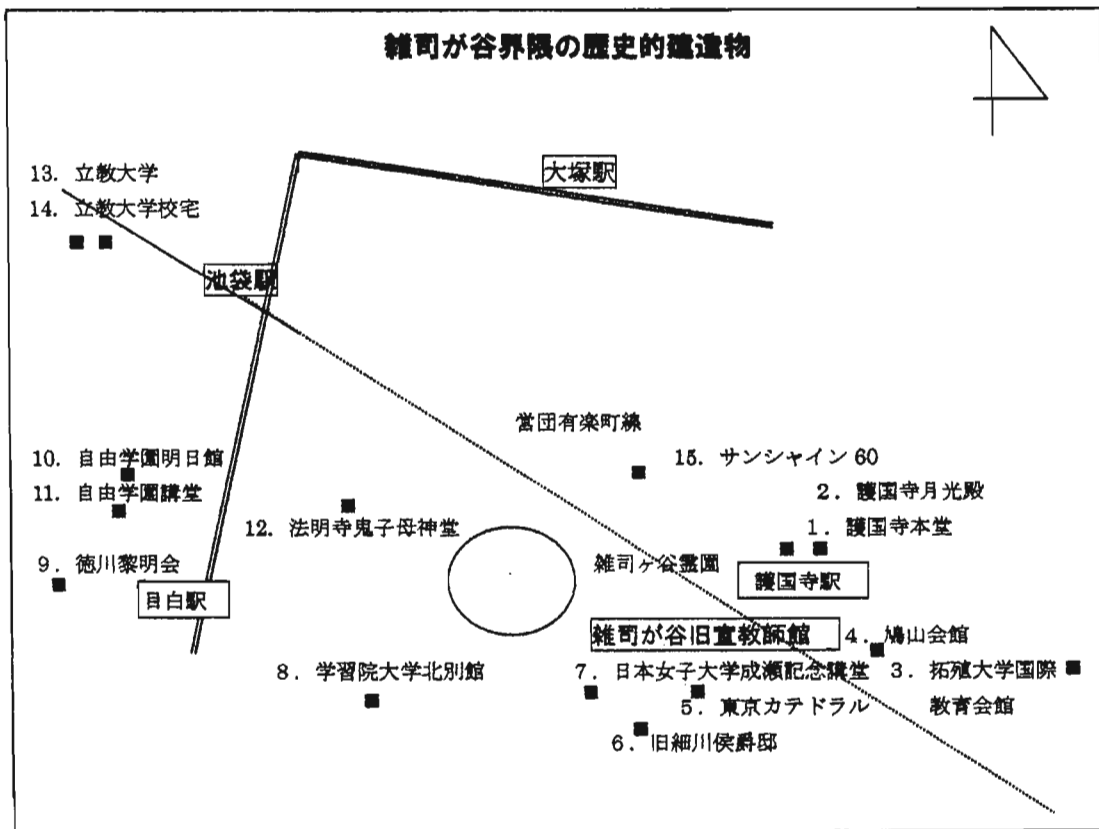
* 4. 1918年（大正7）、大正デモクラシー運動高期「童話と童謡を創作する最初の文学運動」をうたい創刊された児童冊子。「赤い鳥」の発祥の地は、高田村大字巢鴨字代地3559（現・目白3-17）

* 5. 菊地寛が1923年（大正12）に高田町雑司が谷金山（現・雑司が谷1-16-8）に設立。

* 6. 幕末から明治・大正・昭和戦前期に、西洋の技術・材料・意匠を用いて建てられた建築、いわゆる西洋館とよばれた建築物をいう。

* 7. 昭和初期ナショナリズムの台頭を背景として、無国籍または国際的な様式の近代主義建築に対抗して主張された様式。構造は鉄筋コンクリート造または鉄骨造で、これに伝統的な屋根を被せるのが最大の特色である。

* 8. 明日館は、地をほうようなアメリカの草原住宅（プレーリースタイル）を模している。1997年国の重要文化財に指定にされ、2001年より一般公開されている。



雑 司 ヶ 谷 霊 園 特 集 ②

霊園のまわりには10軒余りの花屋さんがあり、中には霊園の開設当初から創業しているというお店もあります。各花屋さんがそれぞれに得意先を持ち、年3

回、春秋のお彼岸そしてお盆に墓所の掃除などを依頼されているということです。それぞれの創業時期や語り継がれていることなどを伺ってきました。今回は次の4軒に

ついでにご紹介します。

質 問 内 容

- ①創業時期 ②店の移動の有無
- ③主なお客様 ④エピソードなど

秋元花屋

- ① 1874（明治7）年創業
- ② 創業時から現在の場所
- ③ 泉鏡花、永井荷風など
- ④ 「泉鏡花のお孫さんは、足が弱くなったと仰りながらも年に数回お墓参りにいらっしゃいます。」
「ご墓前のお客様の中には、毎月墓参にいらっしゃる方が多いです。遠くは沖縄や北海道からもいらっしゃいます。」

藤乃家生花店

- ① 明治末期創業
- ② 元々は墓地の中に家があったが、墓地拡張のため東京市に買われて現在地に。店はこちらに移ってから始め、3代目。
- ③ シ・アルフィーの坂崎孝之助さんや元コメディアンの中野凡太さんらがお実家の先祖の墓参にお見えになります。
■「小泉八雲のお墓はどこですか」など

それぞれのファンの人たちも訪れます。外国の方が訪ねてみえた事もあります。■ファンということに関しては、夏目漱石は若い人が多く島村抱月は年配の人が多く見受けられます。

■以前に、島村抱月のお墓は家族のお参りが少ないので抹消の話が出たとき、抱月の信奉者たちが東京都に残すように働きかけを行いました。その結果、現在は補修されて綺麗になりました。

- ④ ■島村抱月の二つ目の右隣に小さな「まこちゃん」の墓があります。亡くなったおばあさんから、「まこちゃんの墓は松井須磨子のお墓なんだよ。須磨子は慕っていた抱月の墓に入れてもらえず、そんな須磨子を哀れに思う人たちが墓地を買って納骨してあげたと聞いたよ。」と繰り返し聞かされたものです。

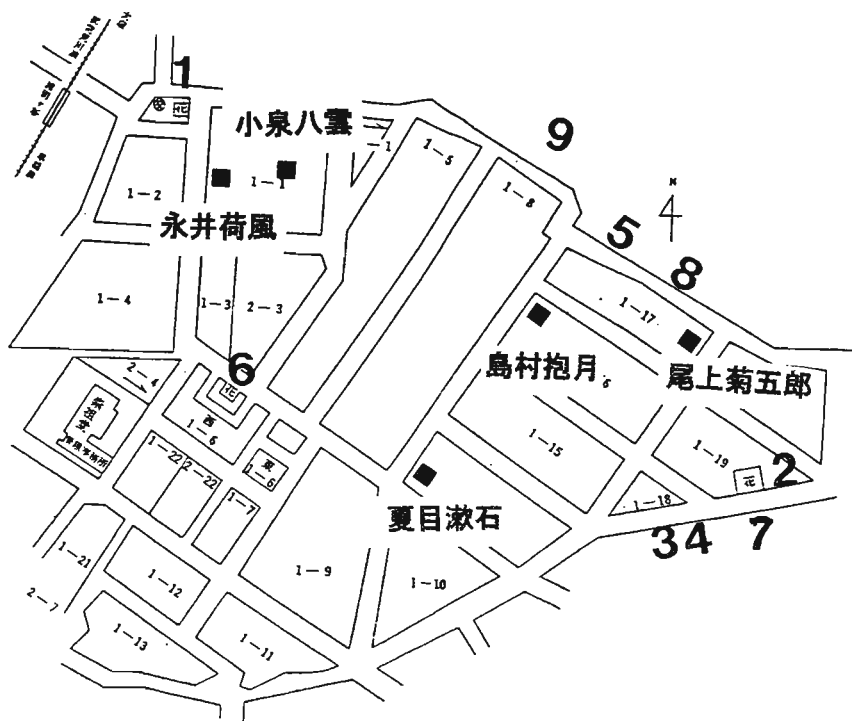
■ここはあらゆる宗教のお墓があるので、シキミ・サカキそしてお花といういろいろ置いています。

鈴 乃 家 本 店

- ① 明治の中頃、今から 110 年前に創業。現在は 3 代目。
- ② 同じ場所

都電荒川線

雑司ヶ谷霊園周辺の生花店



1. 秋元花屋

2. 此花亭

3. 志のふ家

4. 鈴乃家本店

5. 鈴 高

6. 住 吉

7. なか山

8. 平井家

9. 藤乃家生花店

- ③ 夏目漱石、竹久夢二、伊沢多喜男など
- ④ ■毎年、夢二の亡くなった9月1日に、記念の催しをしているようです。夢二記念館の館長さんの主催で、夢二の墓前で声楽家が「宵待草」を歌います。
- お得意さんからは彼岸とお盆に加えて、法事の日にも綺麗にしてくださいとか、墓所に除草剤を撒いてくださいと頼まれることもあります。
- 随分昔幼稚園の頃、漱石の骨を骨壺に入れるのに遭遇したことがあります。人夫さんが骨を拾いながらにぎやかに、「大きなすねの骨だね。すべてが長い」と大声で話していたのがとても印象的でした。作業をしていたのは石屋さんじゃないかと思う。夏目漱石は大きな人だったと読んだことがあります。
- やはり子どもの頃、サンシャインがまだ拘置所だったとき、墓地の中の囚人のお墓を拘置所の未決囚の人たちがそろそろとやってきて、お掃除をしているのを見たことがあります。

鈴 高 花 店

- ①「鈴乃家」の分店
- ②明治の中頃、鈴乃屋さんの親戚が分店を開いたのが始まりです。
- ③大井憲太郎、白井喬二など
- ④カラスやごみ処理対策として供え物もち帰りが見られている昨今、お客様の中には、「墓前に供えた花を持ち帰りたいので花束にしてください」とか、「籠に入れてください」と仰る方がいらっしゃいます。

以上、4軒のインタビューです。それぞれの方に、「墓地の傍にあって怖いものはなんですか」と尋ねてみました。

藤乃家さんは、「ここで生まれ育った主人は火の玉を見たことがあると言っているけど、現在は火葬なのでそういうものは出ません。むしろ痴漢が怖い。お花を持ってお参りに行ったお得意さんが息をきらして、「変な人がいるんです」と戻ってこられると本当に困ってしまいます。」

鈴乃家さんは、「子どもの頃からお墓で遊んでいるので、お化けとかその類のものがでくるなどといわれてもちっとも怖くない。む

しろ変質者が怖い。以前は現在のようね見通しのよい塀ではなく、高いコンクリート塀でしたから。」

と揃って同じ答えでした。次回は、ほかのお花屋さんを訪ねます。お楽しみに。

お知らせ(広報としま3/5号で募集)

春の 雑司が谷名所めぐり(仮称) 開催します!

2004.3.27(土) 10時~1時

ご案内する人:多児貞子さん

(雑司が谷地域研究家)

ソメイヨシノの発祥地・豊島区。サクラ名所の中でも法明寺のサクラは風情が格別。『雑司ヶ谷霊園掃苔ファイル』を作成し、地元雑司が谷を隈なく調べまわった多児貞子さんが、とっておきの見どころをご案内します。



(島村抱月の墓前で。2003/3/30「雑司が谷を歩く」)

編集後記

「雑司が谷宣教師館だより」第29・30合併号お届けします。遅れました事を深くお詫びいたします。

霊園のブロック塀が生垣が変わったのは、平成12年。近隣を悩ます落ち葉の季節も終わり、冬木立の向こうにそびえるサンシャイン60の展望台から、中庭の大王松が見えると来館者が教えてくれました。新たな視点を求め、雑司が谷を一望してきます。(浜地)